

地質情報

地質調査所
地質情報センター



写真1 会場入口に掲示された案内(都立産業貿易センター)

地図展 '90 に出展して

1. はじめに

地図展 '90 が、「地図でみる TOKYO」をテーマに、昨年6月3日から6日まで、東京都立産業貿易センターにおいて開催されました(写真1)。

地図展は、建設省国土地理院・日本地図センター・全国測量業団体連合会・日本測量協会・地図協会・日本測量調査技術協会・日本地図調製業協会・測量専門教育センター等が主催機関となり、海上保安庁水路部・教育委員会・日本放送協会・日本民間放送連盟と共に、地質調査所も後援団体として、毎年主要都市において開催されています。第1回の地図展は、1967年に東京の小田急デパートで開かれていますから、今年で24回目です。

地質調査所は、1974年の大阪開催の折りに初めて国土地理院の要請を受けて協力しました。その後一時中断しましたが、1982年の北海道札幌市開催以後、今年まで毎年協力、出展をして来ました。

2. 測量の日

1949年6月3日に「測量法」が公布されて、一昨년이ちょうど満40年目に当たります。それを機に6月3日が「測量の日」として制定されました。昨年は第2回で、6月3日にはつくば市の国土地理院でもいろいろなイベントが催されました。地質調査所からも多数の人が見学しました。地図展も「測量の日」の関連行事の一環として、同じ時期に行われることになりました。また、測量・設計システム展が「地図展」と同じ会場で同時に開催されました。

3. 会場

昨年の「地図展 '90」の展示では、伊能忠敬の作った江戸時代の日本の古地図や、明治・大正・昭和から現在の最新図へと、図の変遷で首都圏の移り変わりが見られる所には比較的年輩の男性(もっとも会場内は圧倒的に男性が多かった)が感慨ぶかげに見入っていました。「暮らしと地図」という所では地形図の利用方法の紹介や、学校

や自宅の位置を測ったり、市町村の面積を比べてみるというようなことをやっていました。「地図と地球環境問題」では、環境の変化を空中写真で示したものと、環境の変化で海面が上昇した場合日本はどうなるか、あるいは東京湾を例にとり、海面が何m上昇すると東京のどの辺りまで水没するか等を図で見ることが出来ました。

「緑の国勢調査」という動植物の分布の変化を示したものもありました。「測量・地図と地震・噴火予知」というところでは、地震現象の紹介、伊豆大島や関東大震災等に関する資料や、地震予知観測のしくみなどが展示されていました。ビデオの上映もありました。「新しい地図作成コーナー」では、コンピュータによる陰影立体地図、集成図「つくば」、インクジェット出力というものによる段彩図、鳥かん図等の紹介がありました。この他に、お遊びコーナーでは、パソコン地図クイズ、ジグソーマップ、地図記号あてクイズなど子供や若者向きに趣向をこらしたものもありました。海上保安庁水路部は2、3の海図を展示していました。企業からの出展の一つでは、道路情報や気象台風情報などを内蔵したマイカー用の情報装置を紹介していました。

今回の展示をみると、作図の技術が全体にコンピュータ化されている点に感心しましたが、しかし基礎の部分はやはり人力に頼るようです。数値情報を取り入れた新しい製図や、報告書等の電子出版について、当地質情報センターでも現在研究・模索中であり、参考になるものがありました。しかし、国土地理院の担当の人も言っていました。金と人が伴うことなので、現実には中々困難な面があるようです。

4. 地質調査所の展示

地質調査所は、国土地理院の要請にこたえて、今年に関東地方の地質図類を出展しました。会場が東京なので、来場者も東京近郊の人が多いのではないかと考え、

地質調査所で発行されている地質図のなかから、1/20万地質図の「東京」、「横須賀」、「千葉」、「大多喜」、「静岡・御前崎」を貼り合わせて集成し、簡単な解説を付して「関東地方の地質図」として出展しました。また、1/5万地質図の「姉崎」、「東京西南部」、「藤沢」、「横浜」、を同時に展示しました。ちなみに一昨年は(会場は大阪市)1/5万地質図を貼り合わせて集成し「大阪湾周辺の地質図」として出展しました。

宣伝用に「地質調査所の地質図」というパンフレットを200部ほど用意したのですが、1日目の午前中になくなってしまい、また地質図についての質問も多数ありました。会場が東京だったためか、例年より入場者も多く、会期中の入場者は延べ14,720人を数えたということです。地図に対する高い関心の現れでしょう。

5. 地質図の普及

2年ほど前までは、地図展の会場で地質調査所の地質図の販売も行ったのですが、主催者側の事情で販売が出来なくなったのは残念なことです。

地質図を買いたいが入手の方法がわからない、ということをよく耳にします。情報管理普及室では、地質調査所出版物の利用者への普及・宣伝に心掛けています。地質調査所標本館での販売をはじめ、各学会等の総会時には会場での販売を日本産業技術振興協会(技振協)を通じて行い、また国立教育会館筑波分館で行っている全国

教員研修のスケジュールの中に、地質図についての紹介の時間を入れてもらっています。また、各都道府県の教育委員会宛てに「地質調査所の地質図」のパンフレットを送り、高校に紹介を依頼したりしています。しかし、地質図の普及活動はまだ不十分でさらに工夫が必要でしょう。ちなみに、地質調査所発行の地質図は本欄末尾に示した各機関か書店を通じて入手することができます。

6. おわりに

国土地理院で発行している地図類は、住民の生活に直接係わる情報、例えば都市計画、道路・鉄道計画、自然環境保全、公共施設、その他諸々のデータが盛り込まれた図面です。地質調査所の発行する地質図は、日本列島の各地域がどのような時代の、どのような岩石で構成されているのかをくわしく図示した、国土の基本的情報を示す図の一つであり、開発や保全に当たっての基礎図として役立てられています。勿論、登山やハイキングに持参して、地球の歴史を学ぶ教材にもなります。より多くの人に活用してもらうため、地図展に今後も協力するだけでなく、当情報センターとしても一層の努力を続けるつもりです。

最後に今回の出展に際して地質図の集成やその他に協力された中島和敏・川畑 晶の両氏に感謝いたします。

(地質情報センター情報管理普及室 三上テル子)

◇地質調査所月報11—12号(1990年)が刊行されました。◇

地質調査所月報 第41巻第11号

Niobium mineralization of Cataloa I carbonatite complex, Goias, Brazil
 ……Hideo HIRANO, Masaharu KAMITANI, Takeo SATO and Sadashisa SUDO 577-594

Araxa carbonatite deposit and its lateritization
 ……Masaharu KAMITANI and Hideo HIRANO 595-604

Jacupiranga carbonatites in Sao Paulo State, Brazil—Their mode of occurrence—
 ……Hideo HIRANO, Masaharu KAMITANI and Elias C. DAITX 605-617

Carbon and oxygen isotopic composition of the carbonates from the Jacupiranga and Cataloa I carbonatite complexes, Brazil
 ……Toshiro MORIKIYO, Hideo HIRANO and Yukihiko MATSUHISA 619-626

Determination of Nb and Ta in weathering soils from Brazilian carbonatite complexes

……Tadashi FUJINUKI 627-629
 Important carbonatite-alkaline/alkaline complexes and related mineral resources in the world
 ……Masaharu KAMITANI and Hideo HIRANO 631-640

地質調査所月報 第41巻第12号
 霞ヶ浦湖底堆積物中のアミノ酸と単糖類
 ……寺島美南子・井内美郎 641-655

大阪平野南西部における大阪層群と基盤の花崗岩—岸和田市並松町のボーリング資料—
 ……栗本史雄・山田直利・佐藤光男 657-663

中国地方、江の川中流域に分布する羽須美層の石炭紀珊瑚化石と玄武岩
 ……秋山哲男・松浦浩久・石橋 澄 665-677

地質調査所の出版物について
 問い合わせ：地質情報センター情報管理普及室
 Tel. 0298-54-3601

購 入：地質標本館 Tel. 0298-54-3750
 東京地学協会 Tel. 03-3261-0809
 日本産業技術振興協会 Tel. 0298-52-3388
 地学情報サービス Tel. 0298-56-0561